

第2期豊後大野市
まち・ひと・しごと創生総合戦略
【概要版】

豊後大野市

【豊後大野市人口の将来展望（ビジョン）】

豊後大野市の中長期展望：2065年時点の人口は「20,609人」

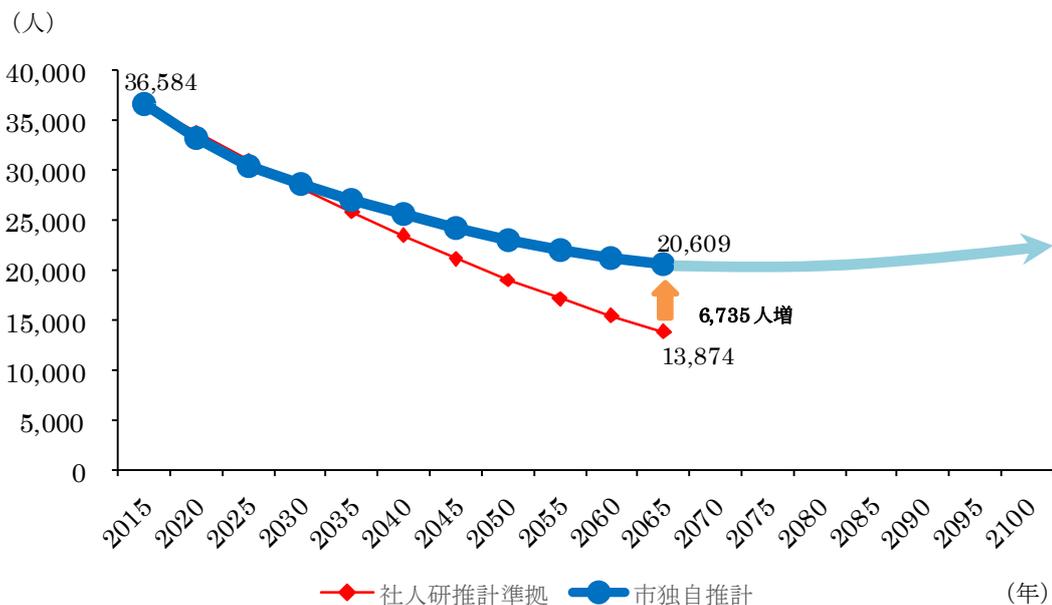
■自然動態

若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる施策を総合的に推進し、子どもを安心して産み育てられるまちを実現することで、低下傾向にある合計特殊出生率の回復・向上を目指します。具体的には大分県人口ビジョンで示された合計特殊出生率の目標値を参考に、2025年は1.72、2030年は1.93、2040年は2.24、2045年以降は2.30を維持し、大分県と同水準に合計特殊出生率が上昇することを目標とします。

■社会動態

本市においては、大学進学や就職による人口流出が多く、この流出を解消しなければ人口減少の歯止めはできません。

そのため、本市に「住みたい」と思える住環境や生活インフラの構築を進める施策の推進により、U I Jターン就職の促進と就職に伴う転出抑制を目指します。加えて、今後ますます存在感が増す高齢者層が健康で安心して長生きできるまちづくりの推進により市外からの転入者を増やすことを目指します。さらに、地域を支える地域外の人材を呼び込む仕組みづくりを進め、地域の担い手となる人材の確保を図ります。具体的には大分県人口ビジョンで示された社会増の仮定値を参考に、2025年までに社会増減の均衡を目指し、2025年以降は毎年107人を社人研推計値にプラスし、社会増となることを目標とします。



【豊後大野市が目指すべき将来の方向】

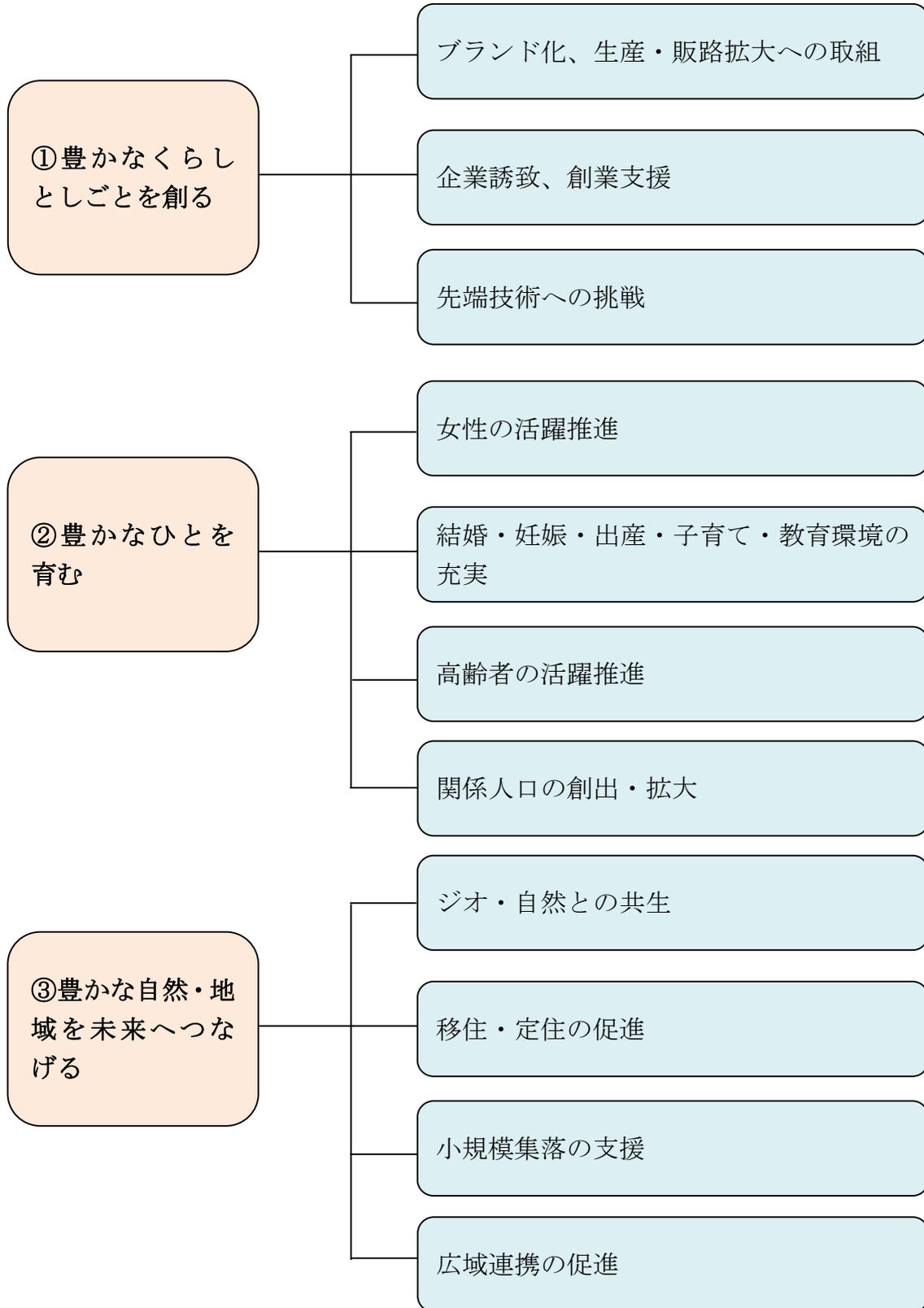
本市人口の現状分析や将来見通しを踏まえると、引き続き人口減少が地域社会へ多大な影響を及ぼすことが懸念されます。そのため、出生数の減少などによる自然減と、人口移動による社会減を抑えていく必要があり、本市の目指すべき将来の方向として「人口減少を抑制しつつ、将来の人口増加に向けて地域の活力を維持すること」が重要です。

この実現に向けて、以下の3つの柱に沿って、具体的な地方創生の取組を進めていきます。

3 つ の 柱

1. 人口減少の大きな要因の一つとなっている、若者の市外への転出超過を抑えるために、就労ニーズに対応した環境を整備し、地域での就業や起業につなげること。
2. 人口減少を抑えるため、若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえることや、高齢者が生涯現役で過ごせる環境をつくること、また、地域外からの新たなひとの流れをつくり、「ひと」の好循環を確立し、まちづくりを担う人材の確保・育成を行うこと。
3. 地域資源を未来に残し、地域の活力を維持していくため、地域内外から地域を支える仕組みづくりを行うこと。

【豊後大野市総合戦略の基本目標と基本的方向】



【総合戦略の進行管理－PDCAサイクル－】

総合戦略の進行管理を行うためPDCAサイクルを導入し、基本目標に即して定めた重要業績評価指標（KPI）等について、毎年度その進捗状況の分析・評価を行います。

その結果は、総合戦略推進委員会に報告し意見を聞くとともに、必要があると認めるときは、計画を変更することやその他の必要な措置を講じます。

－PDCAサイクルとは－

さまざまな分野・領域における品質改善や業務改善などに広く活用されているマネジメント手法で「計画（Plan）」「実行（Do）」「評価（Check）」「改善（Action）」のプロセスを順に実施していくものです。

－総合戦略におけるPDCAサイクルのプロセスのイメージ－

